

# 鎮西学院大学DX推進5か年計画

現状・課題	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
<p>・WITH COVID-19 求められる学校機能 つながり保障 健康保障 学びの保障</p> <p>↓</p> <p>ICTは文房具ではなく スキューバダイビングの「ボンベ」</p> <p>↓</p> <p>デジタルトランスフォーメーション(DX)は「学びの継続」に必須</p> <p>↓</p> <p>・レガシーシステムからの脱却 ×教育プログラムの複雑化・老朽化・ブラックボックス化 ×AI・RPA加速化時代の人材ニーズへの未対応</p> <p>・デジタルデバイドの克服 ×通信量の制約によりリアルタイム・オンライン授業が困難 ×教員間/学生間のデジタルデバイスが大学間格差として露呈し選ばれない大学へ</p> <p>・学び方・授業の革新:ブレンディッドラーニングという戦略 対面+オンライン+反転授業が標準モデルへ? →×教員の業務の増大</p>	<p>学び続けるために学びを革新する</p>					<p>「いつでも・どこでも・何度でも」</p> <p>キャンパス/学外フィールド/自宅での学修環境の整備・拡大と同時に、学生・地域とのあらたなエンゲージメント形成</p>
	<p>キャンパスの革新:GIGAキャンパス</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ G-Suite for Educaiton活用</li> <li>▶ 学生用PC端末整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基幹ネットワーク整備(キャンパス内LAN再整備)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 学生ノートPC/タブレット端末必携化</li> </ul>			
	<p>学びの革新:ブレンディッドラーニングの全学導入</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オンライン授業ツール・ソフト整備</li> <li>▶ WEBカメラ・マイク等の機器/G-Suite・Zoom等</li> </ul>	<p>ブレンディッドラーニングの戦略的展開</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ヘルプデスク開設・専門人材配置</li> </ul>	<p>Society5.0/社会のDX化を見据えた基礎力としてのICTスキル学修プログラム</p>				
		<p>ICTを最大限活用した既存プログラムの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 特色ある地域課題解決型プロジェクト学習 PBL・Community Service Learning</li> <li>▶ 海外研修プログラム・単位互換留学プログラム</li> <li>▶ 専門職養成(福祉・教職)プログラム</li> </ul>				
	<p>大学の革新:アジャイル型カリキュラムマネジメント体制の強化と人材育成</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 組織/個々の教職員のデジタルデバイス解消FD・SDプログラムの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ DXと学びの革新をけん引するマネジメント人材の育成</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 学びの革新に対応した教職員の業務・役割分担の見直し</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 学びの革新に対応した教授者の学び直しを促進</li> </ul>				
						<p>学びの革新</p> <p>○学修方法の革新:知識提供はオンライン、コンピテンシー(対人スキル、課題解決力等)養成は教室・フィールドで</p> <p>○カリキュラムの革新</p>
						<p>カリキュラムマネジメント体制の確立とFDの強化</p>

# DXによる学修者本位の学修の実現に向けて

2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
学びの革新を続けることで学びを保証する					「いつでも・どこでも・何度でも」 キャンパス/学外フィールド/自宅での学修環境の整備・拡大
キャンパスの革新:GIGAキャンパス					
<ul style="list-style-type: none"><li>➢ G-Suite for Educaiton活用</li><li>➢ 学生用PC端末整備</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 基幹ネットワーク整備(ギガビット対応キャンパス内LAN再整備)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 学生ノートPC/タブレット端末必携化</li><li>➢ 授業動画アーカイブ集積/反転・ブレンディッド学修の常態化</li></ul>			<b>学びの革新</b> ○知識提供はオンライン、コンピテンシー養成は教室・フィールドで ○自律的・主体的学習者の養成 ○地域・世界・企業等、他者との新たなエンゲージメントを形成する力の養成
➢ AI×就学・修学支援ログ→ 教務事務・学生相談業務のDX化					
学びの革新:学生・キャンパス・地域・世界・産業を「つなげる」「つながる」					カリキュラムマネジメント体制の確立とFDの強化 ○AIによる学習者中心のTeaching支援 ○大学プラットフォーム内で教育コンテンツの共有と質保証の仕組みの構築 ○
<ul style="list-style-type: none"><li>➢ オンライン授業ツール・ソフト整備</li><li>➢ WEBカメラ・マイク等の機器/G-Suite・Zoom等</li></ul>	eポートフォリオ・eシラバス・WEBミーティング等の学修ログをLMSで集積、AIにより学生個々の進路実現に向けた最適化した総合的修学支援を実現				
<ul style="list-style-type: none"><li>➢ ヘルプデスク開設・専門人材配置</li></ul>	コアカリキュラムとしてDX対応人材養成プログラムを開設 ➢ Community Service Learning(農商工連携・観光・福祉等、特色ある地域課題解決型プロジェクト学習) ➢ 海外協定大学間連携を中心としたグローバル・オンラインプログラム ➢ 職業統合型・専門職養成プログラム				
学生間の「相互扶助」「協働の経験」「信頼関係」を保証する仕組みづくり					
大学の革新:アジャイル型カリキュラムマネジメント体制の強化と人材育成					
<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 組織/個々の教職員のデジタルディバイド解消FD・SDプログラムの実施</li></ul>	➢ AI×Teaching Portfoliolによる学習者中心のTeaching支援				
➢ AI×修学支援ログ×学修目標達成度(成績評価・外部テスト等)によるプログラム評価・検証・改善体制の確立					
➢ QSP(九州西部地区大学・短期大学連合 産学官連携プラットフォーム)事業のDX対応					

# DXによる学習者本位の学修の実現に向けた 指標 アウトプット指標

## 【アウトプット指標】

外部アセスメントテスト（PROG）により、以下の指標を可視化。

学期始期のオリエンテーション時の修学指導、全学SD報告会での教職員に可視化を通して、教育プログラムの改善に役立てる。

- ① リテラシーの伸長度（1年次→3年次） 目標：判定レベルの上昇
  - 情報収集力 ○情報分析力 ○課題発見力 ○構想力
  - 言語処理能力 ○非言語処理能力
  
- ② コンピテンシーの伸長度（1年次→3年次） 目標：伸長度の上昇
  - 対人基礎力 ○對自己基礎力 ○対課題基礎力

# DXによる学習者本位の学修の実現に向けた 指標 アウトカム指標

## 【アウトカム指標】

学生実態調査により、以下の指標を把握

- ① 1週間の学修量：目標 予習・復習など授業に関する授業外学習0時間を0%に
- ② 主体的学びの実感：「主体的学びが身についた」90%以上に
- ③ 成長実感：「とても思う」「まあ思う」計90%以上に

# DXによる学修者本位の学修の実現に向けた外部評価体制

- 取組①共同FD・SDによる相互評価

DXによる学びの革新の進捗について、他大学との共同によるFD・SD活動を通して、教育の質的転換の成果・進捗について、情報共有を図り、プログラムの改善につなげる。

指標：年1回以上の共同FD・SDの実施

- 取組②学識経験者・産業界からの意見聴取・評価

学識経験者及び産業界により構成する大学評価協議会及び上記共同FD・SDへの学識経験者や産業界の参加を通して、意見聴取

指標：上記取組の年1回以上の実施